

751 中央大学第十七回剣道大会

〔法学新報〕第33巻4(376)号 大正12年4月1日

○中央大学第十七回剣道大会 中央大学学友会年中行事の一たる剣道大会は霜刀紅葉を剪り錦片落ちて粉々たる霜月末を下し挙行都下、専門学校武道大会の幕を閉つるを例とせしが道場改築の爲め開催するを得ず是れ部員の髀肉の歎を感じる所なりしか剣道部創設以来破天荒の千葉、茨城両県下遠征を企画各所に転戦凱旋し質実剛健の校風の如く益々其堅実を加へ更に新歳を迎ふると共に新大道場に寒稽古を催し剣光虹の如く雲駆雷奔剛猛果敢に其の技を磨き機の到るを待てり。

二月十八日第十七回大会を新大道場に開く。来賓として馬場(愿)佐藤両理事堀予科主任大松教務主任出羽丸山両学生監を初め中山今泉両師範其他検証として斯道の大家二十名、一般来観者堂に溢る、の盛況たり。参集学校数中等学校十八、専門学校二十五、警察三、道場三、斯くて組合はせ総数実に九十有七此外校内紅白勝負、中等学校高点勝負専門学校紅白高点勝負等あり。午前八時部員の紅白勝負を以て始まり中等学校三本勝負を終つて中等学校高点試合に移る一等青山学院稻垣君六人を抜き金牌、二等早実井手君四人を斬り銀牌、三等日本中池田君三人を破り銅牌を受く。午後は専門学校三本勝負に始まり本学部

員の勝利八割五分以上の好成績を収めたり。斯道の大家高野佐三郎先生と中山博道先生の帝国剣道形一大偉彩を放ち満場水をうちたるか如し。最後に当日第一の興味ある専門学校聯合軍対本学の紅白試合を行ふ。紅軍は帝大多羅尾四段を大将とし早大宮口三段を副将として何れも各学校の大将副将連のみより成れる陣容たり白軍は本学北島四段を大将とし山中三段を副将とし其率ゆる所は嘗て常総の野に転戦せる精鋭たり。白軍始めより優勢にして意気既に敵を圧す遂に大将北島副将山中以下瀬田神田大澤井上檜垣の不戦者を残して大勝す白軍の下河部六人を倒し一等金牌を受け。同帆足五人を破り二等短刀を受く馬場会長の丁重なる挨拶ありて午後六時を閉づ（剣道部報）